



132
2024夏

にってん フォーラム

高田馬場^{いち にーさん しっ!}1-23-4 ————— 長岡英司

2023（令和5）年度事業報告 ————— 立花明彦

新任幹部職員をご紹介します

新しい顔

公益財団法人JKA補助事業完了のお知らせ

ユニバーサルデザインの落語絵本を作りました

————— 春風亭昇吉

川崎市視覚障害者情報文化センターだより — 安藤秀美

「バードタッチング」展 開催中 ————— 伊藤宣真

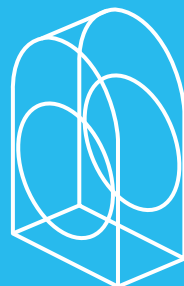
私と日点 ————— 矢澤由美子

明日につながる支援の力

リレーエッセイ ————— 新郷 愛

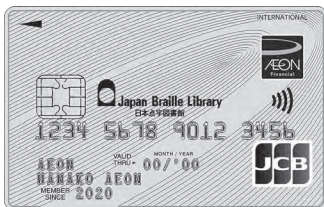
ご存知ですか？こんな商品

チャリティコンサートのご案内



ISSN 0916-8877

日本点字図書館カード 会員募集中



入会金・年会費無料

あんしんのクレジットカード
盗難保障

※カード発行には所定の審査がございます。

カードご利用金額の一部を

社会福祉法人日本点字図書館へ寄付いたします。

寄付金は、点字図書、録音図書の製作・貸出に役立てられます。

(※カード会員さまのご負担はございません)

みなさまがカード会員となり、ご利用いただくことで

視覚障がい者の方々を応援できるカードです。

その他詳細・

お申込みはこちら

日本点字図書館カード

検索



■カードに関するお問い合わせはイオンカードコールセンターまで

電話番号: **0570-071-090** (ナビダイヤル / 有料)

043-296-6200 (有料)

受付時間: **9時～18時** (年中無休)

お電話番号をよくお確かめのうえ、お間違えのないようご注意ください。



イオン銀行

(業務受託会社)



イオンフィナンシャルサービス

蝉の声

ながおかひでじ
理事長 長岡英司

一年で最も暑い時季となりました。自然も社会も夏一色の日々が続きます。音の風景も同様です。その一つに蝉の声があります。子供のころに蝉取りに熱心だった私は、特にこれが気になるのかもしれませんが。

東京周辺で最初に鳴き始めるのはニイニイゼミです。梅雨明けが近づくと「ジー…」という長く単調な声が聴こえ、夏の到来を実感します。少し遅れて鳴き始めるのがアブラゼミです。「ジリジリジリ…」と油で揚げ物をするときの音に似ており、暑さを搔き立てる声です。「ミーンミンミン…ミーン」というひょうきんな声で鳴くミンミンゼミも、同じ場所に登場します。やたら速い調子で鳴いたり、ゆっくり鳴いたり、すごく長く鳴き続けたりする個体がたまにいて、面白く思うことがあります。8月に入り立秋のころに鳴き始めるのがツクツクボウシです。鳴き声が「オーシンツクツク」とも聴こえますので、そのようにも呼ばれます。この声を聴くと、夏休みの宿題の仕上げに焦ったことを思い出すという人が、少なくありません。そして、街中ではあまり聴かないのがヒグラシです。鳴き声からカナカナとも呼びます。朝夕を中心に鳴く爽やかな声ですが、哀愁を感じるという人もいます。こうした蝉たちの共演に、近年変化があります。東京周辺では以前は耳にしなかった「ワシャワシャ」というクマゼミの一段とにぎやかな声を聴くようになりました。いわゆる地球温暖化の影響なのかもしれません。

蝉取りをしたと言っても、重度の弱視だった私が自分で捕まえるのは困難でした。立ち木や木製の電柱で鳴いている蝉は背景と同じような色ですし、体長が数センチですから、正確な居場所を見つけられません。そこで、蝉取りはいつも兄弟や友達と一緒にでした。私の役割は、鳴き声を聴いて「あっちの方にオーシンツクツクがいる」という具合に、蝉の近くまで導くことでした。そして後は、連れが、竹の棒の先端に袋状の布を取り付けた捕虫具で捕まえます。そのような蝉取りでしたが、役割があることで十分に満足し、大いに楽しんだものでした。

2023(令和5)年度事業報告

たちばなあけひこ
館長 立花明彦

「164 グループ、699 名、前年比 207 名増」。これは 2023 年度に当館を見学くださった方々の数です。

昨年 5 月、新型コロナウイルスの感染症法上の分類は季節性インフルエンザと同じ 5 類に引き下げられました。これにより、各種の制限は撤廃され、人々の移動が盛んになり、賑わいが帰ってきました。それは当館の見学者数の増加からも読み取れ、その数を、当館への関心度と期待の現れとして大変うれしく思います。

新型コロナウイルスについての取り扱いが変更されたことを受け、当館では、事業の殆どを従来の方式に戻して展開。結果「わくわく用具ショップ」への来客数も回復傾向を見せましたが、売り上げは期待通りの回復には至りませんでした。また当館の貴重な収入源である寄付金は減少し、こうしたところに昨年来の物価高騰の影響が現れているように推察されます。これらの要因から決算は赤字となり、財政的に厳しい状況が続いていることを重く受け止める次第です。

年度を通しては、五つの重点課題を立てて運営を進めました。ここでは紙数の関係から四つについてご報告します。

1. 図書利用登録者増に向けた方策の検討と実践

当館の登録者を年代別に見た場合、70 歳代が最も多く 28% を占め、これに 50 歳代 19%、80 歳代 18% が続きます。

利用登録者を増加させる一つの方策は、絶対数が少ないとは言え、若い世代へのアプローチにあり、そのための行動は欠かせません。そこで教育機関へ出向いて視覚障害者にとっての読書の方法、図書館サービスの内容、利用の仕方等を紹介しています。2023 年度は都内の視覚特別支援学校 2 校と、視覚障害者が学ぶ大学・教員養成施設で出前授業をしました。さらに教員の研修会にも出向き、録音図書の利用について、読書機器やサピエ図書館の使い方の紹介等を行っています。このほか、都内で開催されたロービジョン関連のイベントにもブースを出展し、図書館利用の紹介をしました。

これらの取り組みの結果は、新規登録者数 339 名、同団体数 4 となって現れました。2023 年度末の利用登録者数は 12,876 名、利用登録団体数 592 です。

2. 点字図書製作体制の充実

図書館には、知を集積し、後世に伝える使命があり、当館にはその知を点字で伝え、点字文化を守り伝える任務があります。この義務を遂行するためには、一に点訳者の質の向上を図ることと、次に人員配置を含めた製作体制、使用設備等の課題の整理と改善を行うことが求められます。

後者については課題を洗い出し、その改善方策を見出すためのワーキンググループを発足させ、改善の道筋をつけるべく始動させました。検討課題のうち、蔵書点訳者の養成と確保については一定の方策が示されたので、2024 年度中に実施に移します。残る項目は引き続き検討作業を行う必要があります、2024 年度の重点項目に組み込んでいます。

3. 「サピエ図書館」システム担当職員の継承化

今日の視覚障害者への図書館サービスは電子図書館「サピエ」を中心に展開されています。それ故、システムの構築段階から主になって関わり、今はその管理を担当している当館の責任と役割は大きいものがあり、システムを安定的に運用し、そのうえで発展させる責務をも担っていると言えます。そこで、関連する業務を担うサピエ・CLIS システム管理班を設置し、その規程を作成して 2024 年度からの始動に漕ぎつけることができました。システムの安定的、かつ継承的な運営は図書館サービスの展開を左右する要素となるだけに、この班の円滑な始動に努めていきます。

4. 広報活動の充実

広報活動を統括し、効果的に推進させるため 2023 年 4 月、広報委員会を設置し、体制を整えました。

広報活動の一環としての「にってんワークショップ」は年間 7 回催し、各回好評を博しました。また法人が保有する視覚障害に関する豊富な資料等を広報や研究活動等に提供する奥村文庫では、外部から 559 名の利用がありました。うち、17 名は研究者です。所有する資料を用いた当館についての研究や講演では 3 件の論文が公開されています。

当館の事業は、利用者、ボランティア、寄付者、助成団体の皆様のご理解とご支援が大きな助けとなって遂行されていることは言うまでもありません。改めて深く感謝いたしますとともに、引き続きのお力添えをお願い申し上げます。

新任幹部職員をご紹介します

今年度より就任した、当館事業の中心を担う新任幹部職員を紹介いたします。

さわむらじゅんいちろう
図書製作部長 澤村 潤 一郎

2002年に新卒で入職以来、用具事業課、点字製作課、録音製作課、用具事業課長、総務課長という順で勤めてまいりました。なかでも製作部門の点字製作課では7年、録音製作課では10年勤めました。図書製作部はこの両課から成ります。

図書製作部では、図書・雑誌の製作のみならず、社会の求めに応じて様々な資料や設備を、点字化、触知化、音声化、テキスト化、マルチメディア化などの技術でアクセシブルにする仕事も手がけています。「合理的配慮」や「読書バリアフリー」の考えが社会に浸透するにつれて、こうした仕事のニーズはますます高まってゆくでしょう。

図書や雑誌の製作・提供においては、公的な委託、ご寄付、企業・団体様からのご助成、そして多くのボランティアの方々のご協力をいただいています。利用者ニーズはもとより、それらの趣旨やご厚志にも適ったものでなければなりません。

サービス提供施設である当館の製作部門は、レストランの厨房にたとえることができるでしょう。ふだん人目に触れることは多くありませんが、料理人（＝職員）たちの目は常に社会と技術の動向に開かれていなければ、世の中の期待に応えられる料理（＝製作物）を提供し続けることはできません。老舗の料理長としては甚だ弱輩者ですが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

しまだ のぶあき
生活支援部長 島田延明

4月より生活支援部長を務めております島田延明と申します。昨年度までは同じ生活支援部内の自立支援課におり、訓練や相談業務に携わっていました。

思えば、当館に入職してから用具事業課、川崎市視覚障害者情報文化センター（指定管理部）での訓練と用具担当、自立支援課と、利用者の皆様を直接サポートする業務を担当して今に至っています。

図書館でのキャリアの中で転機となったのが、川崎市視覚障害者情報文化セ

ンターに配属されていた時に、大阪の日本ライトハウスで半年間歩行訓練士の養成課程を受講したことです。それまでの用具事業課でも、商品を介してのやり取りや問い合わせの経験はありましたが、歩行訓練士として利用者の困りごとを伺い、その困りごとを解消していくために訓練や相談などのサポート業務に携わることができたのは、大変な一面もありましたが充実した時間を過ごせたと思っています。

当館は「点字図書館」という名称ですが、点字図書・録音図書の製作や貸し出しの他、用具の販売や訓練サービスの提供、ふれる博物館や各種イベントの企画・運営なども行っており、見えない・見えにくいのかたの生活全般に渡るサービスを展開している総合施設になります。今後も時代に即したサービスを提供し、図書館の発展のために尽力したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

録音製作課長 ふじさわのりこ 藤澤典子

この度録音製作課長に就任いたしました藤澤典子です。約20年録音製作に携わっています。入職した頃は、母、祖母の年齢に当たる朗読奉仕者の皆様に大変可愛がっていただき、息子の嫁になどと言っていたこともありました。が、ほどなく結婚。おかげ様で、今日までやりがいのある仕事を続けることができています。

20年を振り返ると、当時はカセットテープ全盛で、雑誌担当の私は限られた時間内に音源を収めねばならず、10秒を短縮することに懸命だったことを思い出します。デイジーになってからは、ほぼ時間の制約はなくなりました。

さて、現在当課では音声図書に加え、テキスト・マルチメディアデイジーと、文字や画像も扱うようになりました。また、シネマ・デイジー、テレビ・デイジーといった動画に説明を加えた録音図書、さらに時代は合成音声、そしてAIへ向かっています。米国や韓国では、図表や写真を言葉で説明することは少ないようですが、日本は活字の内容をできるだけ忠実に伝える図書作りが主流です。製作に時間がかかるという弱点がありますが、今後それはAIが助け舟になるかもしれません。

当館は、1957年の録音図書製作開始以来、常に時代の先を見据えてきました。まさに今、過渡期にボタンが渡されたと感じます。伝統ある課を守り発展させていけるよう邁進してまいります。

新しい顔

今春、当館に3名の新規職員が加わりました。
私たちの新しい仲間を皆様にご紹介いたします。

た なかこういち

田中功一（指定管理部）



皆様、はじめまして。4月に入職しました田中功一と申します。所属は指定管理部で、iPhoneとパソコンの訓練担当です。

私は全盲の中途視覚障害者です。今から9年前、病気により左目を失明しましたが、右目はメガネをかければ車の運転もできる状態でした。ところが3年前、右目の視力と視野が徐々に低下し、1年半前にとうとう失明してしまいました。この失明

するまでの期間はとても辛く、妻や子供たちにも苦しい胸の内を話すことができませんでした。

全盲になる直前、主治医に白杖を持つことを勧められ、川崎市視覚障害者情報文化センターとつながりました。最初に歩行訓練を受け、iPhoneの画面読み上げソフト「VoiceOver」を設定してもらいました。その後、パソコンの画面読み上げソフト「PC-Talker」を教えてくださいました。全盲となった直後の私は未来を想像することが全くできませんでした。訓練や情報提供を受けて希望の光が差ししました。これらの経験をお伝えし、お役に立てれば幸いです。よろしくお願いいたします。

た もがみ

田最上あずさ（図書情報課）



図書情報課貸出サービス担当の田最上あずさです。

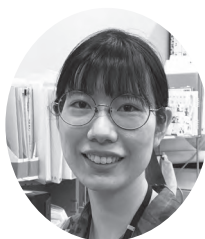
大学卒業後、福祉施設の支援員や公共図書館の勤務を経て、この春より当館の職員となりました。貸出サービスでは、主に国内外への図書の貸出や返却、希望図書の受付などを行っています。作業の中では地名や宛名、書名を五十音順に整理することが多く、今更ながら五十音に苦戦する毎日ですが、先輩方に

温かい声をかけていただきながら楽しく働いています。

私の故郷は八ヶ岳の麓にある長野県茅野市です。市内の中学校では、標高2,800メートルの八ヶ岳登山が恒例行事となるほど自然豊かな環境で育ちました。

そんな私の趣味は自由気ままな鉄道ひとり旅です。のんびりと電車で揺られ、勇気を出して駅そばに立ち寄るのも楽しみのひとつとなっています。いつか青春18きっぷで長旅ができたかと、これから行きたい場所やご当地グルメを探しているところです。

当館での業務はまだ不慣れで未熟者ですが、皆さまと本をつなぐ架け橋になれるよう努めてまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



なるかわ ゆり こ
生川由李子（点字製作課）

点字製作課の生川由李子と申します。出身は、神奈川県の大塚市。七夕まつりとヤンキーが名物です。田んぼに囲まれた中学と、目の前に海が広がる高校で吹奏楽を続け、大学ではチンドン屋サークルに所属していました。今でも休日は、時々商店街のお祭りに呼ばれてトランペットを吹いています。

現在私は、点字の勉強に励んでいる真っ最中です。分かち書きなどの独特な書き方のルールや、点訳ソフトの入力操作に日々四苦八苦しているものの、チャーミングな先輩方のもとで毎日楽しく働いています。点字の書籍は、ボランティアの方をはじめとするたくさんの方々のご尽力の結晶であること。わかりやすい点字の案内板の製作には、たしかな知識と経験に裏打ちされた技術が不可欠であること。点字について知れば知るほど、たゆまぬ努力と研鑽の大切さを実感しています。必要としている方々の手に、早く、正確な点字をお届けできるよう、一生懸命に先輩方の背中を追いかけてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



公益財団法人JKA補助事業完了のお知らせ

この度、2023年度の競輪の補助を受けて、以下の事業を完了いたしました。本事業により、視覚障害者が就業や充実した日常生活を営むために役立つ、独自の「聞く雑誌」を製作、配布いたしました。

ここにご報告を申し上げるとともに、謹んで感謝の意を表します。

事業名 「2023年度障がいのある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業」

事業内容 視覚障害者用月刊CD雑誌『医学研究』・『ホームライフ』の製作及び配布

補助金額 2,909,000 円

実施場所 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号
社会福祉法人 日本点字図書館

完了年月日 2024年3月22日



社会福祉法人 日本点字図書館
理事長 長岡英司

ユニバーサルデザインの落語絵本を作りました

落語家 しゅんぶうていしょうきち
春風亭昇吉

私は大学時代、落語研究会に所属していました。大学3年の時に学生落語の全国大会で優勝しました。それからは、地域の集会や、高齢者施設、医療少年院、ホスピスなど、いろんな施設で、ボランティアで落語をやりました。その中に、八王子盲学校がありました。始まる前、担任の先生に「いろんな子どもたちがいるので、古典落語は難しいかもしれませんね」と言われました。しかし、蓋を開けてみると、予想外の大ウケ。子どもは、お世辞で笑いません！

落語では「カミシモを切る」と言って、話し手が顔を左右に向き分けることによって人物の演じ分けをします。盲学校の子どもたちは、壁への音の反響の仕方によって、どっちを向いてしゃべっているか分かるそうです。また、音から映像を想起したり、音から感情を読み取ることが得意な子もいるのかなあ、と感じました。

中には全盲、全聾のこどもがいました。その子に、視覚障害をもった先生が、ヘレン・ケラーのように、手で一生懸命に何をやっているのかを伝えていました。

公演後、子どもたちに感想を聞くと「おもしろかった」「声が聴きやすかった」と言われました。音を頼りに生きている子どもたちに、声がいいと、言われたことが涙がでるほどうれしく、私にとって学生時代の忘れられない思い出となりました。

そんな体験を元に、今年の春に、落語のユニバーサルデザインの絵本を作りました。点字だけでなく、落語に登場するモノや、長屋などの建築物を、触って楽しめるよう3Dプリンターで立体化できるようにしました。^{せいび}星美学園短期大学^{おおうちすむ}の大内進先生のアイデアです。

自分が20年間思い続けていたことが、たくさんの協力者によって実現しました。自分はただ頭の中で考えていただけです。実際に、力を貸してくれた方のお陰で夢をかなえることができました。

墨字（多色の平板な絵図）によって、この絵本は、目の見える子も見えない子と一緒に楽しめるように作ってあります。視覚障害をもった親が、晴眼の子どもに読み聞かせをすることもできます。

触図作製は、嶋川久仁子^{しまかわくにこ}さんと、印刷会社の白山印刷^{はくさん}さんが心を込めて取り組んでくださいました。触るクイズは誰もが一緒に楽しめるようになっています。

本という物体があることで、これを起点として、いろいろな分野に広がっていく可能性があると思います。

落語は、室町時代にお坊さんの説法から始まりました。明治のはじめには速記が新聞連載されます。1903年三遊亭円遊^{さんゆうていえんゆう}が初のレコード録音をしました。関東大震災後の1925年にラジオ放送、1953年にはテレビ放送が始まり、落語家が重宝されました。2020年のコロナ禍では、WEB配信が急速に進みました。社会と技術とともに、変化してきた落語ですが、今後はAIや先進機器を使えば、もっとバリアのない演芸になることができるかもしれません。

そそっかしい、忘れっぽい、誘惑に弱いなど、人間の弱さをおおらかに笑いで包んできたのが落語です。多様性をみとめる社会をめざすきっかけになればと思います。

今、落語家が860人ぐらいいます。各都道府県出身の落語家がいると思います。今後は、全国の盲学校や点字図書館に、ご当地の落語家に行っていただき、子どもたちにナマの落語を届けるのが私の夢です。



『てんじつき さわるえほん まんじゅうこわい』

(一社) 落語ユニバーサルデザイン化推進協会 作

多屋光孫 絵

合同出版 発行

本体 4,000 円 + 税

※当館、わくわく用具ショップでも取り扱っています。

川崎市視覚障害者情報文化センターだより プライベートサービス ～多様なニーズに応える～

あんどうひでみ
総務グループ 安藤秀美

今回は、川崎市視覚障害者情報文化センターのプライベートサービスについてご紹介します。

川崎市在住・在勤・在学の方を対象に、どこにも蔵書がない図書や、日常的に必要な取扱説明書や商品パンフレットなどの個人的なニーズに応える点訳や音訳をしています。無料のサービスですが、点字用紙・CDなどのメディアはご負担いただいています。蔵書製作との大きな違いは、必要とするところや不要とするところを依頼者と話し合いながら決め、できあがったものは第三者の校正を経ずに、比較的早く提供できるということです。

この10年間で、依頼されるものに大きな変化はありませんが、読書環境の変化に伴い、要望される形式は様々に変化していきました。肉声での音訳以外で比較的多いのは、合成音声によるデージー図書化です。まず、本を画像データにし(PDF化)、それをOCRによりテキストデータに変換します(プレーンテキスト化)。そのテキストデータを合成音声で読み上げさせ、デージー編集をします。

そして現在は、パソコンやタブレットなど様々なツールで読書が可能となり、プレーンテキスト化やPDF化の依頼もあります。

初めてのPDF化の依頼は、とても大変なものでした。依頼者は、iPadで画像を拡大して読んでいるロービジョンの方。1ページの中に本文、図表やグラフ、数式などが市松模様のように入り組んで書かれており、自力ではどうにも読めないで、本文と図表・数式の2種類に切り分けてほしいというご希望でした。試行錯誤しながら完成させたそれは、大変喜ばれほったしたものです。

音訳以外には、ギターのコード表の拡大文字化もしました。これらの多くは、ボランティアのご協力あってこそこのサービスでもあります。

手持ちの点字データのプリントアウトや、対面朗読もプライベートサービスの一環です。様々な希望にお応えできるよう、日々奮闘しています。

日本点字図書館は、指定管理者として、川崎市視覚障害者情報文化センターを運営しています。

第14回企画展

「バードタッチング」展 開催中

いとうのぶざね
ふれる博物館館長 伊藤宣真

鳴き声はよく聞くけれど形は知らない。名前もよく聞くけれど形は知らない。そんな鳥たちを集め、日本点字図書館附属池田輝子記念ふれる博物館では第14回企画展「バードタッチング」を開催しています。

野鳥彫刻家として有名な内山春雄^{うちやまはる お}氏製作のカラスやスズメなどの「タッチカービング」(触察を前提とした木彫りの模型)、キジやフクロウなどの剥製、キツキやインコなどの頭骨の3D模型など、大小約30点を展示しています。鳥といっても様々な形があること、翼はいろいろな羽根の集合であること、食べ物によってくちばしの形が異なることなどを触って理解していただきます。

また、展示する鳥の鳴き声も紹介していますので、触るだけでなく聞いても楽しめる企画展になっています。

実施に当たっては、北海道大学大学院の島絵里子^{しまえり こ}氏に多くのアドバイスをいただき、国立科学博物館、NPO行徳自然ほごくらぶにも資料提供のご協力をいただきました。

会期は9月28日土曜日まで、開館日は祝日を除く水曜日、金曜日、土曜日です。(8月14日、16日、17日は休館です)

※ 事前予約制です

【お申込み・お問い合わせ】

090-3247-7290 (10時～16時)

(ふれる博物館開館日のみ)

03-3209-0241 (代) (9時～17時)

(その他の日、本館代表番号)



フクロウの剥製



私と日点

利用者 やざわ ゆみこ 矢澤由美子

自立支援室で訓練を始め8ヶ月が経ちますが、歩行訓練初日の記憶は、今も鮮明です。病気が進行し、この10年間全く一人で歩いていなかった私。白杖を持ち、不安なまま歩き始めると、意外なことに、とても清々しく新鮮な気持ちになりました。それからの訓練では、様々な失敗を繰り返しましたが、歩行訓練士の先生の根気強く分かりやすい指導で、なんと電車やバスを乗り継ぎ遠方まで行けるようになりました。小さく縮こまっていた私の心を蘇らせてくれたのは、この歩行訓練でした。

そして今は点字訓練中ですが、点字の案内表示が読めると、その便利さは想像以上でした。エレベーターやトイレの水洗ボタン、駅の階段やホームドアに付いている案内など。常につきまとう「これでいいのかな？」という不安を解消してくれるのですから。また点字での読書は、イメージが湧きやすいように思います。点字盤には悪戦苦闘していますが、楽しくなってもきました。先生はご自身も視覚障害をお持ちですが、凛とした雰囲気の方で、私に希望を抱かせてくれる存在でもあります。

毎月のレクリエーションでは、訓練生たちが集まり勉強会をします。「液晶パネルって困るよね。」などの話に皆で共感し、何気ない会話の中に、自分と同じ悩みを感じたりします。当事者ならではの生活に即した情報交換もでき、有意義な時間です。

最近の嬉しい変化に、目に執着しなくなったことがあります。杖先や指先に神経を集中し、周囲の音を聞いていると、自分が何も見ようとしていないことに気が付きました。実際には光を感じる程度の視力なので、何も見えないのですが、病気から解放されたような気がします。これも思いがけない訓練の成果なのでしょう。まだまだ訓練は続くので、この先どんなことに出会えるのか楽しみです。図書館サービスやサピエ、用具ショップも含め、日点は私の生活の一部になっています。これからもよろしくお願いします。

◆ ◆ ◆ 明日につながる支援の力 ◆ ◆ ◆

このコーナーでは、当館をご支援くださっている団体・企業などをご紹介します。(総務部)

こう か 晃華学園 むぎ 麦の会

「プリント室の年間プリント量は単行本3万本、雑誌12万本、外注（国会図書館、日本聖書協会等）他2万本、計17万本である。（中略）年々プリント室の人員を増やしているが、それでも追いつかないので「麦の会」という主婦のボランティアグループに労力奉仕頂いている。それでプリント増になんとか持ちこたえているのが現状で、このグループには心から感謝している」

これは本誌の前身である『日点だより』1979年11月発行号に当時のテープ部プリント係主任が書いているものです。プリントというのは、当時は録音図書のマスターテープから、貸出用のカセットテープに複製する作業でした。ちょうど録音図書の形態もオープンリールテープからカセットテープに変わる過渡期で、プリント作業は多忙を極めていました。麦の会にはカセットテープのキャメル包装を剥く作業、ラベル書き、テープの音を消して再利用するための消磁作業という地道な部分を担っていただき、1990年、当館の創立50周年記念式典において感謝状を贈呈いたしました。

麦の会は、「汚れなきマリア修道会」を設立母体とした私立晃華学園の保護者の方たちで作られた会で、当館での活動は1976年に始められました。時代は変わり、録音図書・録音雑誌はデジタル化されカセットテープからCDに変わりました。おこなっていただく作業も、毎月5千枚以上郵送するCD雑誌の宛名ラベル貼りや封入、蔵書ケースのリサイクルなどに変わりましたが、変わらず地道な作業です。コロナ下の3年間は活動もお休みされていましたが復活し、今も毎週火曜日と水曜日に異なったチームの方が来てくださっています。

48年間の長きにわたる、ご協力・ご支援に深く感謝申し上げます。

工夫を重ねてより良い図書へ

録音製作課 しんごう あい
新郷 愛

私は主に録音図書の製作を担当しています。図書に書かれている情報を読者が正確に理解できるよう、録音図書製作では、様々な工夫をしています。朗読、イラストの説明、同音異義語の処理…、ここでは、耳で聞いて理解できる図書を作るための工夫をご紹介します。

まず、朗読は、ただ本に書かれていることを声に出して読むだけではありません。誤読をしない、音量やテンポを一定に保つ、ノイズを入れない、など気をつけることが多く、神経を使う作業です。せっかく長い文章を噛まずに読めたとしても、「ぐ〜っ」とお腹が鳴ってしまったら、もう一度読み直し、ということも多々あります。

イラストの説明では、視覚的な表現を簡潔かつ、伝わりやすい言葉で表現することが求められます。「公園で一人の少年がサッカーをしていて、青い帽子を被っていて、白い半袖シャツを着ています」というように、一文が長いと聞いてわかりにくくなります。そこで「公園で一人の少年がサッカーをしています」で一度区切り、二つの文に分けて、一文を簡潔にするようにしています。

同音異義語は、例えば「こうかいをした」というフレーズが、漢字で「後悔」なのか「航海」なのか、耳で聞いてすぐにわからない場合があります。そのような時は「後で悔いる」「海を船で渡る」といった漢字の説明を添える工夫を行います。

他にも多くの工夫がありますが、これらは、ボランティアさんをはじめ、録音図書製作を担ってきた人々の間で、長年にわたり培われてきたものです。これまでの蓄積を学び、業務を通してボランティアの皆さんの朗読技術や工夫に触れることで、私自身も日々成長を実感しています。

試行錯誤を繰り返し、より適切な工夫を行う図書製作は、決して簡単な仕事ではありません。ですがその分、一冊が完成したときの喜びは何物にも代え難いものがあります。読者の方にとって、よりわかりやすく、有益な一冊を届けるため、これからもボランティアの皆さんと協力して、工夫を重ねてまいります。

ご存知ですか?

こ な 商 品

わくわく用具ショップより、どなたが使っても便利な商品をご紹介します。

ウェブショップからお買いものができます。ぜひご利用ください。

お問い合わせ 03-3209-0751

URL <https://yougu.nittento.or.jp/>

サイレントアンブレラ

[大きさ] (長さ) 約 88.5cm × (直径) 約 112cm

[重さ] 約 469g

[メーカー] 丸安洋傘株式会社

[価格] 19,800 円 (税込み)



視覚障害の方が雨の日に出した時、傘にあたる雨音は周囲の音を聞き取りにくくするため歩行に支障をきたします。そんな雨音を軽減してくれる傘のご紹介です。

傘の上にメッシュ生地を張った二重構造となっています。メッシュ生地が雨を受け止めるので「パサッパサッ」という優しい雨音に変わり、周囲の音が聞きとりやすくなります。また、紫外線と熱を遮断するので、日傘としてもご使用いただけます。一般の輸入日傘とくらべると、なんと内側の温度に 10 度以上の差があります。製作には 100 以上の工程を職人が手作業で丁寧に作り上げています。

色はオレンジ、ネイビー、ひまわり柄ブルー、ひまわり柄イエローの 4 色あります。ご来館の際にはぜひお手にとってお試しください。

チャリティコンサートのご案内

第22回本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサート「澤^{さわ}和樹^{かずき}
& 梯^{かづし}剛之^{こうし} デュオコンサート」を下記の通り開催いたします。

澤さんは2022年まで東京藝術大学学長を務め、現在は同大および英国王立音楽院の名誉教授。ヴァイオリニスト、教育者として国際的に活躍し、2023年には韓国文化体育観光部長官賞を受賞されました。

梯さんは生後間もなく失明。4才半よりピアノを始め、小学校卒業と同時にウィーン国立音楽大学準備科に入学。世界的なピアニストとして活躍し、故小澤征爾、フルネ他多くの指揮者と共演しました。

澤さんは昨年、梯さんは2014年以来、2回目のご出演です。

出演：澤 和樹・梯 剛之

日時：2024年11月24日（日）13時30分開場、14時開演

会場：東京文化会館 小ホール（JR上野駅公園口改札より徒歩1分）

料金：4,000円（全席自由）

曲目（予定）：

モーツァルト：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ ト長調 K.379

ベートーヴェン：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ No.9 イ長調
「クロイツェル」

フランク：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ イ長調

チケットのお申し込み・お問い合わせは当館総務課（電話 03-3209-0241）
までどうぞ。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

にってんフォーラム〈第132号〉 2024 夏

発行 2024年7月25日〈年4回発行〉

発行人 長岡英司

編集人 立花明彦

発行所 社会福祉法人日本点字図書館

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4

電話03-3209-0241（代） FAX03-3204-5641

URL <https://www.nittento.or.jp/>

*本誌の記事を撮影したり光学的に読み取ったりして、SNS等で発信したり
ウェブサイトへ転載することを固くお断りします。

ワクワク! / ドキドキ!



あなたと映画を観たい。

映画みていて!

「スマホで聞く音声ガイド」



NPO メディア・アクセス・サポートセンター

〒106-0041

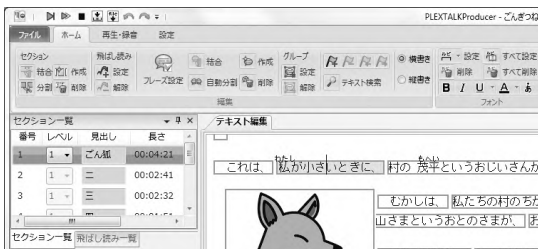
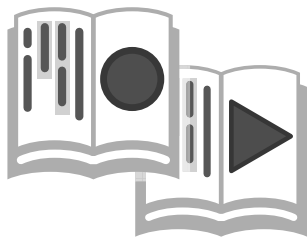
東京都港区麻布台2-3-5 ノアビル1階

MASC

検索



音声 / テキスト / マルチメディア DAISY 製作ツール



PLEXTALK Producer

で作れる 新しい DAISY のカタチ

音声DAISY … 録音図書の標準方式

- ⊗ テキスト文書から音声合成で図書が作れます
- ⊗ CD 書き込み機能で、直ぐに貸し出しできます

テキストDAISY … 音声のない DAISY

- ⊗ データ容量が小さく、受け渡し時間が短縮できます
- ⊗ ルビ振りにも対応し、正しい読みも担保できます

マルチメディアDAISY … 音声とテキストのマルチメディア

- ⊗ ディスレクシアなど合理的配慮の利用対象者が広がります
- ⊗ 既存の音声を使ってマルチメディア化もできます

90日間無料操作体験版は www.plextalk.com からダウンロードできます

サポート OS	Windows 11、Windows 10、Windows 8.1 以降 ※ 各 OS は日本語のみサポート
プロセッサ	Intel Core i3 以上推奨
メモリ	4GB 以上推奨

レイアウトツール 文字化ツール (OCR) でデータ取り込みが楽々 !

PLEXTALK Producer 簡単取り込みセット ¥88,000 (税込)

PLEXTALK Producer 単体 ¥49,500 (税込) 簡単取り込みオプション ¥38,500 (税込)

販売元 :

シナノケンシ株式会社

〒386-0498
長野県上田市上丸子 1078

製品情報、ご注文はホームページ:

www.plextalk.com

※ Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。Intel Coreは米国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
※ 記載の情報は2022年6月のものです。機能および外観デザインなどは、性能向上その他の理由で、予告なく変更することがあります。PLEXTALK、PLEXTALKロゴはシナノケンシ株式会社の商標です。